

はにい

学びの場

平成24年9月11日

全職員での授業研究会。参観した授業は6年生の国語でした。
「最初に全員が自分の意見を発表したことはよかったわね。」
「そう、全員参加の授業だった。」
「発表のしかたも、最初に賛成か反対をはっきり言って、その後に理由をつなげていたのでわかりやすかったです。」
「根拠をしっかりと述べていましたよね。」



協議は4, 5人ずつのグループで行われ、グループの一人が模造紙に太いペンでキーワードを書いていきます。
「ただ、話し合いが進むにつれて、よくわかっていない子がいたような気もしましたが。」
「そうだねえ、途中からは一部の子ども意見だけで話し合いが進んでいったようだったし。」
「じゃあ、そのあたりの原因を考えてみましょうか。」
こうして、グループでの協議のポイントが押さえられていきました。

実は、授業を参観する教師には、事前に本時案が配られて、以下のような内容が確認されていました。

- ・座席表にのっている注目してほしい子どもの様子を参観する
- ・子どもたちの発言や関わり、教師の言葉かけを意識して参観する
- ・本時のねらいを踏まえ、授業でポイントになる場面を考える

先ほどのグループでは、この3点目の「授業でポイントになる場面」として、一部の子どもだけで話し合いになってしまった原因と解決案、手だてを協議していったのです。

研究会の後、若手の先生に話を伺いました。

—— 今日の研究会で学んだことは何ですか。

「子どもたちが話し合いをするときには、何よりもまずテーマの設定が大切だ、ということです。それで、全員を同じ土俵に乗せてから話し合いを進める、ということです。」

「そして、それぞれの発言については自分の立場をはっきりさせ、根拠をもって話す。」

「また、話し合いを深めるには相手の話の内容を十分聞きとることが大切ですね。」

これらはそのまま、研究協議での教師たちの姿でもありました。

授業研究会は教師の授業。授業を公開する教師にとっても、参加した教師にとっても、全員の学びの場です。